

演奏家プロフィール



Débora Rodrigues デボラ・ロドリゲス

1982年マデイラ諸島の北東にあるポルト・サント島で生まれる。6歳でリスボンのモウラリーア地区に移住し、音楽の勉強を始める。9歳で劇場とTVショーデビューを果たし、以後しばらく芸能の世界で活躍する。また、一時期トーレス・ヴェドラスで暮らしていた際は、劇場にてファドの女王アマリア・ロドリゲスの役を演じファドを歌いファドのキャリアをスタートさせる。10代のうちからカーザ・ド・ファド(ファドが演奏されるレストランおよびバー)の有名店セニョール・ヴィーニョ、オ・ファイア、パレイリーニャ・デ・アウファマ、カフェ・ルーズなどでキャリアを重ね、若手実力派としての地位を確固たるものとする。ベルギー、ドイツ、フランス、ルクセンブルグ、スイス、ルーマニア、スペインなど海外での公演実績も多く、リスボンファド界の今後を担うホープとして大きな期待を背負っているファディスタである。

António Parreira アントーニオ・パレイラ

1947年グランドラ生まれ。リスボン古典ファド界の重鎮。ファド界に彼の名を知らぬものはなく、誰からも愛される名ギタリスト。

18歳でスカウトされリスボンのCasa do Fado “Guitarra de Madragoa”にてプロキャリアをスタート、Eduarda MariaやTristão da Silvaといった名ファディスタと共演。

いくつかの有名店を得て、伝説的Casa do Fado “Forte Don Rodrigo”にオープンから閉店まで25年間ギタリストを務め、Alfredo Marceneiro、Amália Rodrigues、Maria José da Guia、Manuel d’Almeida、Rodrigo、José Nunesなどの歴史的ファディスタ、ギタリストと共演。同時期にはTVやラジオでも活躍。海外ツアーでは日本にも訪れた。1997年よりVelho Páteo de Sant’Anaに所属。Teresa Tarouca、Maria Varejo、Maria Mendes、José Manuel Barreto といった著名な

ベテランファディスタと共演しつつ、Liana、Jaqueline Carvalhoなど有望な若手ファディスタを育てた。1999年からはリスボン市立ファド博物館で指導を始め、2002年には月本一史を弟子に迎える。また、2005年からは津森久美子をはじめとした日本人の指導を行う。派閥にこだわらない姿勢は多くのファド関係者から慕われ、またテクニックに寄りすぎない指導によって現在Casa do Fadoで活躍する伴奏者を多数輩出。2015年、古典ファド180曲を楽譜にまとめた『O Livro dos Fados』を上梓。ファドの歴史に改めて名を刻む。二名の子息Paulo Parreira、Ricardo Parreiraもギタリストとして第一線で活躍中。親子3名のコンピレーションアルバムが本年発売された。

